



図1 オローパのガイドブック



図2 手・足等のレリーフ



図3 奉納された杖類



図4 馬に蹴られた図

意味を表すものが多かった。図でこれを紹介しよう。

図2は、そうした展示の一部で、人間の手や足、両眼、あるいは幼児などのレリーフが飾られている。手・足・両眼はその部位が病に冒されていて、その平癒を願ってか、あるいはその病が平癒したので、そのお礼に納めたかいずれかであろう。子供のレリーフは子供を授かりたい、あるいは子供の病を治したい願いを込めたものと解される。

図3は階段の踊り場の天井につるされているもので、金属製の籠に入れられた杖類である。足の病が治り、杖が不要となり、感謝の意味からであろうか、現物が奉納されたのであろう。

図4と図5は、共に事故に遭遇したことを表しているが、どちらにもマリア像を描き、マリアに対する信仰によって災厄の程度が軽くて済んだことを語ろうとしてい



図5 自動車事故の図

るものと思えた。

このような奉納物のあり方からは、内藤道雄がその著『聖母マリアの系譜』（八坂書房、2000年刊）で、

神仏に願かけをしたり、頼みごとを祈ったりするのは洋の東西を問わない。もっともカトリック文化圏